



あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

NO. 40

2004年7月20日

渋谷とみ子の会

埼玉県比企郡嵐山町平沢 254-64

Tel 0493-62-7997 Fax 63-1727

<http://www.aya.or.jp/~r777/shibuya>

eメール r777@aya.or.jp

嵐山町も、これからの自然エネルギーに取り組む一歩を。

7月6日、名栗町にあるもくねん工房を訪ねました。もくねん工房は、西川森林組合(飯能市・日高市・越生町・名栗村)に参加している製材

所の不要な樹皮(バーク)を、たたき砕いて、木の繊維にして、圧縮して小さなペレットにして、ストーブやボイラーなどの燃料にします。もくねん工房で作られたペレットは名栗町温泉「さわらびの湯」のボイラー燃料になっています。

ストーブやボイラーは製品開発の途上ですが、木質ペレットを使用できるストーブやボイラーが一般に出回るようになると、輸入に頼る熱源から日本の自然エネルギーでまかなえる部分が広がります。

私の子どもの頃、お風呂は、紙ゴミをたき付けにして、火をおこし、まきで炊いていました。まきのお風呂が一般的でなくなり、ガス、深夜電力になり、今は灯油を利用しています。

山を活用し、日本の資源を利用する製品開発

に積極的ににとりこんでほしいと考えます。

家庭用製品が開発され一般化するまで、公共施設での利用、たとえば、健康増進施設「なごみ」・「やすらぎ」

のお風呂のボイラーを、木質ペレットのものにする・学校のストーブを木質ペレットのものにする、といった取り組みをしていくなかで、家庭用のボイラーやストーブも開発され、木質ペレットの利用も一般的になります。

山の占める割合の多い比企地域です。川口市は鋳物の町です。



集積される木の皮(バーク)



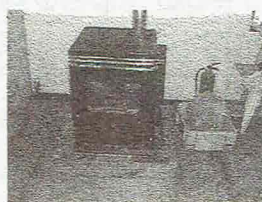
砕かれ繊維化したバーク



バークを圧縮する



木質ペレット



木質ペレット専用ストーブ

埼玉の山の資源を活用し、地場製品を開発し、埼玉県で取り組めるエネルギーの流通市場をつくりたいですね。輸入に頼る石油資源は、やがて枯渇します。中東事情は不安定で、私たちの生活にも影響は大きいのです。私たちの生活に必要なエネルギーの自立をはかっていくことで、新しい地域産業を造ることができます。